



炬火を掲げていざ謳う

No.64



我々の泉鳥取

2023年11月13日(月)

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

金融教育見学会 (その2)

株式って？むずかしい…

— 北浜の大阪取引所で学ぶ —



関西財界の父 五代友厚

今回は、10月20日のもう一方の会場、大阪取引所についてレポートします。大阪取引所は、もともと大阪証券取引所として株式売買を中心に行っていました。そのルーツは、1878(明治11)年、関西財界の父である五代友厚が発起人となった大阪株式取引所です。このため取引所正面には五代友厚の銅像が立っています。

大阪取引所(旧大阪証券取引所)に向かう

取引所は1935(昭和10)年に建築された旧大阪証券取引所の外観を残しています。円形の建物に入ると大きな吹き抜けになっており、屋根はあるものの天井がありません(天井知らずに売り上げがあがる)と験を担いだ設計となっています。

大阪取引所



大阪証券取引所が大阪取引所になったわけ

現在「大阪取引所」となったのは、名前が変わっただけではありません。もともとは「場立ち」という証券会社に所属する専門職員がいて、広い場所で株

を取引していたため、大阪、東京、名古屋などに取引所がありました。今はネット上で取引され、株券も電子化されたために、東京と大阪を分ける必要がなくなり、日本全国の取引所が合併しました。さらに、大阪は江戸時代「米相場」が立ち、当時から先物取引が行われていたため、証券だけでなく、デリバティブを扱う取引所を合併したために、「大阪取引所」となりました。

「株」とは？説明についていくのがやっと

1・2組は午後、3・4組は午前中に大阪取引所に向かいました。株式については、公民科の事前学習で取り扱ったため、なんとかついて行きましたが、「先物取引」を含む「デリバティブ(金融派生商品)取引」に至ってはチンプンカンプン。概念が大変複雑で、学び取ることが非常に難しかった

ようです。投機性が高いデリバティブについて、学校での学習ではなかなか理解することは難しく、教職員にも難しいものでした。現在の時点で取引する株の売買ではなく、将来の値上がりや値下がり予測して先物を買いたい、利潤を得るのは、非常に抽象的で、慣れないと理解しづらくことがよく分かりました。

取引所での学習



自分の生活を守るために金融を知る

生徒にとっては、初めて足を踏み入れる証券の世界、日本銀行で学んだ金融とともに、世の中のお金の流れを知り、自分の生活を守る「生活の知恵」が必要です。

今回、「金融教育モデル校」となり、見学会を行ったのをきっかけに、自分に身近な「お金」について、より深く学んでいくことを望みながら見学会を終えました。

後日、金融・証券と生活(家計)について、家庭科でフォローアップ学習を行う予定です。

昭和30年代 大阪証券取引所の「場立ち」

